

No.12	事業名	学校・家庭・地域連携推進事業 (地域分含む)	担当課	生涯学習課
<p><b>【事業概要】</b>            児童生徒の健やかな成長を支援するため、三者連携地域協力者会議を地域に事務委譲して実施し、各地域課題の解決を目指す。また、地域で学校を支える「おやじの会」の活動・設置に向けた支援を行う。</p>				
<p><b>【目的】</b>            児童生徒の健全育成のために、子どもを中心とした事業や活動をとおして、人と人との確かな関係をつくり、相互に支援しあう「ふれあい」のある地域をつくる。</p>				
<p><b>【平成22年度実施内容】</b></p> <p>(1) 三者連携地域協力者会議「会長会」の開催            全市的な推進を図るため、各地域協力者会議の会長による「会長会」を開催し、情報交換、意見交換を行うとともに、実施事業の検証、周知事業の充実等に取り組んだ。            (4回開催)</p> <p>(2) 学校・家庭・地域、相互の理解促進に向けた事業を各地域協力者会議において実施</p> <p>(3) 本市の「おやじの会」の事業活性化に向けた連絡会の開催（3回開催）</p> <p>(4) 父親を中心として活動する「おやじの会」等の団体の育成及び増加に向けた取組            市内「おやじの会」交流会の実施（参加15団体 35名）            横浜市内「おやじの会」との交流会の実施（参加12団体 34名）            未設置学校長への事業説明のための訪問（夏休み中に11校訪問）</p>				
<p><b>【効果・成果】</b></p> <p>○ 効果            ・事業を通じて、大人同士のつながりが強まった。            ・父親を始めとする地域の男性が地域の教育に参加することへの理解が深まった。</p> <p>○ 成果            ・「おやじの会」が新たに1校開設された。（村岡中）</p>				
<p><b>【課題・問題点（内部評価）】</b></p> <p>(1) 地域協力者会議、おやじの会の認知度が低い。            (2) 地域の支援体制は整ってきたが、さらに地域での横断的なつながりが必要である。            (3) 活動できる会員の不足、運営資金の不足等、活動の不活性化が進んでいる会がある。</p>				
<p><b>【課題解決の具体的方法】</b></p> <p>(1) ホームページ等を活用して市民への周知を行う。            (2) 地域の「学校」「家庭」への理解促進を図る。            (3) おやじの会連絡会を活用した情報交換・学習会の実施を図る。            (4) おやじの会未設置校への情報提供を行う。</p>				

■外部の方々からいただいた主なご意見

1. 事業が目的を実現するための内容となっているか

- 本事業の目的は、児童・生徒の健全育成のため、人と人との確かな関係をつくり、相互に支援しあう「ふれあい」のある地域をつくることにあるとのことであり、三者連携地域協力者会議会長会の開催、おやじの会の事業活性化に向けた連絡会開催等がその内容に含まれると思われるが、必要十分な内容であると言えるかどうか検討が必要であろう。

2. 事業の効果・成果が適切なものか

- 活動実績として、三者連携ふじさわは、各地域協力者会議の事業等、及び「おやじの会」の事業が行われており、一定の成果が上がっているとみられるが、認知度が低く、活動内容の固定化が指摘されている。

3. 課題・問題点の捉え方は適切か

- 「子どもを見守るネットワークの再構築」と「地域での横断的つながり」の必要性が指摘されており、学校・家庭・地域相互の信頼関係やネットワークを再構築していくという意味であれば、適切と思われる。

4. 課題解決の具体的方法は適切か

- 今後の方向性として、ふれあいのある地域社会づくりの必要性を、学校・家庭・地域の三者が理解し、課題を共有して連携を支援するとのことであるが、具体策が従来の活動の延長上にあるという印象である。従来の施策と切り離れた事業の展開を強調していくのではなく、蓄積された従来の学校・家庭・地域の連携の取り組みを踏まえた上で、現状と課題について充分調査・検討する必要がある。

5. 総合的な感想（アドバイス）

- 学校、家庭、地域、行政の連携が大切だが、その地域にあった方法を模索する必要があると考える。
- 「おやじの会」を大事にしながら、学校・家庭・地域の連携事業につなげていく努力が必要である。